
執行人

いぬ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

執行人

【Nコード】

N7398S

【作者名】

いぬ

【あらすじ】

やあやあ、いらっしやい。よく来たね。

これから君たちにはひとつゲームをしよう。死刑囚の君たちが死から逃れられる唯一の手段だ。

君たちの生への渴望を是非私に見せてくれたまえ。

(前書き)

いぬが昔病んでる時に書いた病んでるものです。
気分を害する恐れがあるので閲覧注意

やあやあ、いらっしやい。よく来たね。

ん？ まあそんなに堅くならず。リラックス、リラックスだよ。まあ、そうなるのも無理のない話か。君たちは死刑囚。私は執行人なのだからね。

さて、唐突だが。君たちはまだ死にたくはないかね？ いやいや。答えは聞かなくても分かる。なに、ちよっとした悪戯だよ。ん？ 笑えないかね？ そうか、残念だよ。

訊くまでもないことだが、人はみな本心では死にたくないと思っている。これは人間に限らず生物としての本能だ。抗うことは出来ない。私としてもそのような人たちを殺していくのは大変に申し訳ないと思っている。だが、これが仕事なのだから仕方ないと割り切って今まで何人も殺してきた。それはとても辛いことだった。

だから私は少し上に掛け合ってみた。私は私の思いを私なりに思いつきりぶつけてみた。本来なら通るはずもないことだ。しかし、奇跡は起こった！ 私のその要求は見事にそのまま採用されることとなったのだ！ これは本当に素晴らしいことなのだよっ！！

うむ。いい表情をしているな。そうだ！ 私の要求とは死刑囚達に“逃げ道”を与えることなのだ。君たちの望みどおり、助かることの出来る道なのだよ！

フフフ、まあそう興奮するでない。これにはまだ続きがあるのだよ。おっと、そんなに不安がる必要はない。ただ、助かるにはひとつ条件がある、というだけなのだよ。

その条件かい？ フフ、まあ落ち付きたまえ。今から説明するか、まずはこちらへ来なさい。

さて、ここが今から君たちを“処刑”する部屋だ。ん？ 緊張しているのかな？ 無理もない。ここに来たもの達は最初はそうだった。だが、心配する必要はない。ほら？ あそこの部屋の隅に扉が見えるだろう？ あれはこの収容所で唯一外に直接繋がっている扉なのだよ。私の案が通つてからは皆あそこの扉から外へと出ているのだよ。安心したまえ。

ん？ あの椅子が気になるかい？ あれが君たちを処刑するための道具なのだよ。あれにはいたるところに電極が付いている“電気椅子”と呼ばれる代物でね。あれに座った死刑囚に強力な電流を流して、人の手を汚さずに殺すように開発されたものなのだよ。

さて、では助かるための方法だが、見たまえ。あのリビングのように向かい合つて置いている電気椅子の間に低いテーブルがあるだろう？ そこに三枚のカードを置いてある。是非手にとって見てくれたまえ。

……見たかい？ 裏返すとそれぞれ色が塗つてあるだろう。赤色。青色。緑色、つてね。自分のだけでなくお互いのを見比べるといい。全く同じものを置いてある。それを確認してくれたまえ。

……いいかな？ よし。ではそれをテーブルに戻してくれないか？ ああそうだ。ありがとう。

……フフ、まあそんなに焦らなくていい。これからそれを説明するところだ。リラックスして聞いてくれ。

さて、では説明といこう。といってもそんなに難しいことではない。君たちにひとつ“ゲーム”をしてもらうだけだ。

まず君たちにはあの椅子に座ってもらう。……ああ、そんなに不安にならなくていい。座ってもらうだけで実際にスイッチを入れる

わけではないのだ。ただゲームをするのに座ってもらわなければならないだけなんだ。安心してくれ。

……いいかい？ 説明を続けるよ？ で、だ。座ってもらうと今度はお互いにテーブルにあるカードを手にとってもらう。そしてそのカードを一枚だけ選び、またテーブルに置く。ゲームの内容はこれだけだ。簡単だろう？

では、次にルールを説明しよう。そのカードだが、勢力というものを設定してある。いいかい？ よく聞いてくれ。まず“赤は青に強い”そして“青は緑に強い”最後に“緑は赤に強い”という具合だ。図にするとこんな感じだ。三角形の頂点にそれぞれカードを置く。そしてカードとカードを繋ぐ線の代わりに一方通行の矢印を描く。……こんな感じだ。わかるね？

では、分かったところでもう一度説明しよう。君たちは椅子に坐り、カードを手取る。そして、その中から一つのカードを選び、テーブルに置く。ここまではいいかい？ 次に、カードにはそれぞれ勢力というものがあり、それで勝ち負けを判定する。勝負は一回きり。それですべてが決まる。わかったかな？

では、次。まず、カードがお互いに同じ色だった場合。この場合は君たちはお互いに助かることができる。つまり、死刑を回避できるのだよ。

しかし、もしどちらかが勝ち、どちらかが負けだった場合。これは本当に申し訳ないのだが、電気椅子の餌食になってしまう。許してくれ。

ああ、そんなに怒らないでくれ。まだ続きがあるのだよ。お願いだから聞いてほしい。少しでも生き延びられるためにも……ああ、ありがとう。本当にありがとう。

では、ここからが本当に重要なんだ。良く聞いてもらいたい。実はこのゲームには普通ではありえないルールが一つだけあるんだ。それは“君たちはお互いがどのカードを出すのか相談することが出来る”というものなんだ。……変かい？ でもこれがこのゲームの

大事なところなんだよ。お互いが同じカードを出すために相談出来るということ、確実に助かるカードを出せるということなんだ。素晴らしいだろう？ ……そうか、ありがとう。そう言ってもらえると私も上に掛け合った価値があるというものだ。

さて、では長々と説明をして済まなかった。早速だが、君たちには椅子に坐り、外への道を自らの手で切り開いてもらいたい。さあ、どうぞこちらへ。

どうだい？ 痛くはないかい？ すまないね。一応きつく拘束することになってるんだ。許してほしい。右腕は動くね？ ああ、ありがとう。それだけ動けば十分だ。

では、早速だがゲームを始めよと思う。二人とも準備はいいかい？ ……うん。いい返事だ。希望に満ちている顔だ。素晴らしい顔だよ、ククク……。

ああ、失礼。このように笑ってしまうのは私の悪い癖でね。よく同僚に気味悪がられてるよ、ハハッ。

さて、では始めようか。カードを取ってくれたまえ。いいかい？ うん。それでいい。では、お互い相談を……おっと、すまない。重要なことを言い忘れていたよ。ハハッ、そう笑わないでくれ。同僚にもよく言われるよ。それでも昔はそこその記憶力は持っていたのだが、歳を取るといっものはつらいものだな。ん？ ああ、すまないすまない。話が逸れたな。悪かった。それで言い忘れていたことなんだが……

もし引き分けだった場合は二人とも死刑を逃れる代わりに一生収

もう一つ、真実を教えてやろう！ 実はな、この収容所では囚人はいかなる理由があろうとも囚人同士で殺し合っではいけないんだ。殺したらどうなるか知りたいか？ 処刑だよ！ ここでお前の幼馴染のように鮮やかな“華”を咲かせるのだよ！！ もう分かるな？ お前は“いかなる理由があろうともやってはいけない殺人”を犯したのだ！ つまりお前も死ぬんだよ！ 八八八八八八ッ！！ あの扉はな“死体置場”に繋がっているだけなんだよ！ つまりここに来た時点で死ぬことは確定していたんだよ！ 八八八八八八ッ！！ 死ねよ！ 死んでくれ！ 私に綺麗な“華”を見せてくれ！ 命の輝きを見せてくれええええええええええええッッ！！

さて、これでこの物語はお終いだ。どうだったかね？

……ふむ。やはりこの話は君には刺激が強すぎたか。ああ、もどすなら向こうでやってくれ。私にかけられたらシャレにならないだろう。

……ああ、お帰り。気分はどうだい？ まあ、少し休みたまえ。飲み物ならそこにある。すまないが自分で取ってくれたまえ。私も反省しているよ。久しぶりの客人とあつて少々はしゃぎすぎたようだ。今後は自重するよ。

さて、これで君に聞かせた話はいくつになったかな？ もう随分話したような気もするし、そうでないような気もする。ここには時間の流れというものが存在しないから比較するものがないからね。もしまだ聞きたいのならいくらでも話してあげるのだが？

……そうか。なら仕方ないだろう。聞きたくないのに無理矢理聞かされるのは苦痛以外の何物でもないからな。私も今日はここで切

り上げるよ。少々残念だがね。

まあ今日はゆっくり休みたまえ。またいつか私の話を聞いてもらうためにも、君には健康でいてもらわなくてはいけないのだからね。それまでの間、心を休めるといい。

この残酷で美しい世界の話はまだいくらかもあるのだからね。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7398s/>

執行人

2011年4月25日20時25分発行